

2026年度インフラ・プラットフォームWG活動方針 (高度無線利活用検討TF活動方向性)

2026年4月1日

一般財団法人全国地域情報化推進協会
ICT利活用地域イノベーション委員会
インフラ・プラットフォームワーキング
高度無線技術利活用タスクフォース

2025年度活動成果

ビジネスとして儲かる農業の可能性を検討し提言を整理 (スマート農業推進に向け、注力すべき分野/方向性を整理)

■「日本農業の課題」を類型化

1. 世界における食料安全保障の危機×日本における農業生産性の低迷⇒スマート農業の必然性
2. 他業種と農業との違い(農業の適用除外)について誤った認識が流布
⇒労働法・下請法・食料システム法・独禁法等に関する農家への啓蒙啓発活動が重要

■「食料安全保障の確立」に向けたスマート農業展開シナリオを提言

1. 植物工場立地への企業集団の新規参入を促す成長投資・税制緩和⇒土地生産性の向上
2. 既存の農業従事者を守る地方の農業版スマートシティ普及促進⇒労働生産性の向上

■スマート農業普及に向けた通信ネットワーク整備の在り方を整理

2026年度活動の方向性

■ 営農事業者拡大(スマート農業普及拡大)に向けたモデル検討

1. 農業分野への異業種参入促進策(参入障壁、収益向上策等)について分析
2. 植物工場の新規立地に係る優遇措置について分析
3. 生産性向上を支える新たなソリューション・モデルの検討
※上記の検討の中で、新規参入の優良チャレンジャー企業等を抽出・支援・共創しモデルケース作成・展開 等に繋げるべく取り組む。

□ 農村の持続可能性(農村への定住強化)について分析

1. 若者が移住したいと思う魅力づくり(農業起点の街づくり)
2. 農村に移住する際の障壁の排除(教育、医療、交通、娯楽・・・?)
3. 移住促進の成功事例調査

□ 2026年度活動成果(儲かる農業)の有効性について検証

1. 屋内農業(植物工場)と屋外農業の有効性(費用構造)について検証
2. 事業者ヒアリング(意見交換):屋内(植物工場)と屋外の実態調査
3. 酪農・畜産、林業への展開も視野に入れた調査検討



一般財団法人

全国地域情報化推進協会